

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792830028		
法人名	有限会社 横山製作所		
事業所名	グループホーム あゆりの里		
所在地	福島県西白河郡矢吹町井戸尻496-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和3年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルス感染症が落ち着かない現在ですが、利用者・職員共に問題なくワクチン接種でき、感染することなく健康に過ごしていることに安心しています。利用者の健康を第一に職員が今後も十分な感染対策を徹底して行っていきたく思います。当ホームには隣接した畑があり、今回専属の職員を配置したことで、今まで以上に旬の野菜や果物の提供をし、食べ物によって利用者に季節感を感じながら、健康に過ごしてもらいたく思います。開所12年目を迎え、職員の年齢層がバランスよくなり、お互いに切磋琢磨しながら介護に携わっています。利用者も自分で出来るが見守り声掛けが必要な方がほとんどですが、胃ろうの方もおり、入所から終末期まで幅広く看護と介護を提供できるように職員一同協力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの役割を理解し、管理者の提唱する食事に関する考えを、地域の方に話す機会を設けるなど、事業所の持っている資源を地域に還元しようとしている。利用者一人ひとりの個性を尊重し、その人に合ったケアはどうあるべきかを職員全体で考え、同じ方向でかかわることでケアの質の向上につなげている

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時間に理念を唱和し、意志の統一を図っている。理念を額に飾り、いつも目に触れる位置に飾っている。理念について、会議等で実践につなげるためにはどうしていくかを話し合いを持っている。	開設時、介護保険を熟読し、理念を作成している。申し送りの後に唱和し、理念を大きく掲げ、いつでも目に入るように視覚を通して理解を深めるようにしている。職員が、自分のしているケアが良いのかと自問した時や、悩んだときに理念が活かされていると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会している。これまでは矢吹町の歌手のコンサートやカラオケ、フラダンスのボランティア、幼稚園生の慰問があったりと季節の様々な行事を行っていたが、コロナ禍の為、現在はほぼ中止となっている。(計画はされていたが今年も中止が多い)	コロナ禍前は納涼祭を開催し、地域の方を招待したり、秋の収穫祭には家族や町内会方や子供たちが参加し、カラオケの同好会や幼稚園児の訪問など、利用者で交流している。町役場には職場体験等の受け入れを要望している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症に対する講演会を開いたり、近隣地域の高齢者や、保育園の保護者を対象に食育セミナーを開催していたが、コロナ禍の為、現在はほぼ中止となっている。徐々に地域貢献出来るように準備していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催していたが、コロナ禍の為、現在は家族や地域の方、行政は交えず、職員のみで開催している。開催した会議の議事録を出席予定の方々に郵送して情報を共有し、意見を頂いている。	会議に参加してもらって家族代表を年一度変更し、多くの家族からの意見を聞き、活性化していきたいと考えている。会議の中で、施設長の「今こそ、食育」の講演会を地域で広げた方がいいと言われて、地域などで講演している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	矢吹町の介護福祉課から指導、助言を受けている。分からない点は、介護福祉課に訪問や問い合わせをして、すぐ確認・相談するようにしている。	生活保護の方が入居する際に事業所として行うことは何か、サービス利用はどのようにするのかについて相談している。町から、新型コロナ関連の情報を中心に受け取っている。事あるごとに保健福祉課や地域包括センターへ訪問し、情報交換を行うようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症はもちろん、精神疾患を患っている利用者もいる。最近は徘徊や不穏など症状が出る利用者が多くなってきている。身体拘束適正化のための指針を作成し、3か月に1度、会議を開催、職員間で共有している。	利用者又は他の利用者などの生命または身を保護するため、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をその他利用者の行動を制限する行為は致しませんとの基本方針を持っている。一人歩きの方に、職員が見守りし、利用者がしたいようしてもらおうようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人生の先輩である利用者を敬い、その方の原因疾患を理解し、主治医と連携を図って介護に携わっている。高齢者虐待防止関連法を事例をもとに、会議等で話し合う機会を設け、職員間で共通理解できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係機関より指導、助言を受けるとともに、制度について学ぶ機会を設け、再確認している。研修が開催される時は研修に参加し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約の締結、解約等に関して、利用者や家族に対し時間をかけて、丁寧な説明に心がけ、納得を図っている。入所後も随時質問があれば、説明を行い、お互いに理解納得できるようにしている。デイサービス利用者も、家族、居宅介護支援事業者の介護支援専門員と連絡を密に取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いを確認し、必要時電話連絡等を行い、家族に伝えるとともに、家族から意見や要望を受けている。その内容を協議し、職員の共通理解の元、運営に反映している。コロナ禍のため、SNS(LINE)を利用し、家族と意見交換できるように利用している。	LINEアプリを使用し、利用者の普段の生活や写真を送り家族に今の状況を知ってもらうことができ、喜ばれている。頂いた要望は、ノートに書き込み、随時確認共有し、会議の際に議題としてしている。利用者には毎日声掛けし、困っていることがないかを聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を随時、受け付けている。又、ノートを作成し、皆がいつでも意見や希望などを書き込んだり、閲覧できるようにしている。月1回の定例会を開催し、ノートに書いてある内容を話し合い、統一した言動や行動が出来るようにしている。その場で必ず全員が意見を述べるようにしている。	出来ないからと介助していることは、利用者にとって良いことなのかとの意見が出て、ひとり一人の残存機能を確認し、介助方法を考え、共通した関わりをしていこうとしている。資格取得や研修会参加は、積極的に行っており、可能な限り勤務調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望を受け、有休を設けるなど、勤務と休息が充実したものとなるような勤務体制を考えている。適宜、管理者と職員が面談を行い、今感じていることや思っている事を把握できるように努めている。そのことを踏まえて、給与や賞与を定めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	看護師、介護福祉士、介護職員各それぞれが自分のやるべきことを実践し、またそれぞれの職種を活かしながら職員間で意見交換しながらトレーニングに努めている。コロナ禍のため、外部研修への参加は現在控えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修も少しずつ開催されてきており、開催の際は参加している。これまでに知り合った方と交流を継続して持ち、情報交換、共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は、慣れない環境で、不穏になる方がほとんどである。家族、病院等からの情報や本人との会話、観察からその人の性格、特徴を理解するよう努めている。コミュニケーションを十分に図り、職員間で情報交換しながら、実践に生かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族が求めることを確認し、なるべく希望に添えるよう検討している。現在はコロナ禍の為直接面会ではなく、オンライン面会や電話対応で行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、他施設、病院からの紹介状、担当ケアマネジャーからの情報をもとに介護内容を把握し、見極めていく。さらに入所後の関わりの中で必要と考える支援を検討していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたむこと、野菜の皮むき等、一緒にできることを職員と共に行う。レクリエーションも一緒に参加し、一日を通して関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば、家族に状況を報告し、家族とともに本人にとって何が一番いいのかを話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にできていたことを本人や家族に確認し、思いつきの場所などにドライブで出かけていたが、コロナ禍のため現在は自粛している。	家族や兄弟以外で、知人や近所の方の面会を受け入れ、関係性を家族に確認し、面会してもらっている。家族の希望で家族以外の方の面会はさせないよう希望されることがあって対応が難しいケースもある。馴染み美容室へ職員が連れていったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの特徴、それぞれの性格などを把握し、楽しく会話できるように支援している。利用者同士の相性を見ながら席の位置を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談に応じ対応している。サービスを終了しても、連絡相談を受けられることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを聞き取り、状態や表情から汲み取り、支援している。	入浴時や散歩時など一対一になった時に思いや意向を聞き取ることが多い。好きな食べ物、娘の事、自分が生まれた実家のこと、母の事など話す事がある。日々の生活の中でその方がどう思っているのかを表情や動きを見て、スタッフ全員で考えながら接している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	紹介いただいた居宅事業所や病院から状況を確認し、利用者一人ひとりの今までの生活スタイルを把握し、その方らしい生活が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握し職員で情報共有している。毎日バイタルサイン測定や排泄変化など報告し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族から話を聞き、状態を踏まえて職員間でアセスメントし会議を行い、介護計画を作成している。利用者本人と家族に確認し、評価・追加・修正を行い、生活がより良くなるような計画を立てている。	個別性を重視し、運動機能や認知機能維持のためその人に合った具体的な計画を作成している。身体状況などが変化した時は、職員に対応など報告してもらい、統一した介護につないでいくようにしている。病院受診時等に主治医に報告し、意見や指導してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を実施して、職員それぞれに対応したことを報告し、情報を共有しながら見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりのニーズに対応し、誕生日のイベントなど行っている。家族が対応できないときは、病院の付き添いや買い物などの付き添いも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で施設で過ごすことがほとんどではあるが、感染対策を取りながら、地域のお店や場所などでふれあい、その人らしく生きがいを持っていただけるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医に継続受診したり、往診医に診察してもらいながら、健康状態を把握している。緊急時は協力病院と連携を図り、適切な処置を受けられるように整えている。	専門診療科目については協力病院と連携し、受診をしている。受診は基本的には家族に対応してもらっているが、緊急時には事業所に対応している。受診結果は家族に伝え、医師が家族に伝えたい事があれば、日程調整など行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護に携わっており、変化があれば、適切な対処に努めている。必要時、訪問看護師や主治医に報告、指示を受けている。多職種が協力して、利用者が適切に医療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はサマリーを作成し、施設での情報を提供し、スムーズに医療を受けられるようにしている。また病院関係者(病棟スタッフ、地域連携室等)と連絡を取り、状況確認や退院時対応がスムーズに進むよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や急変時は、適宜家族に状態を報告し方向性を常に話し合っている。また家族に対し、重度化、終末期に対する考えを確認し、希望に沿いながら、医師の指示のもと、チーム医療に取り組んでいる。	重度化や終末期には、家族にどうしていきたいかを常に確認し、利用者に関われるよう家族の心に寄り添いながら対応している。職員には、終末期に関わりができた事に感謝し、この経験を次の終末期を迎える利用者に生かしてほしいと話している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成している。応急手当について、全職員対象に定期的に訓練をしている。また、実際に起きたヒヤリハットなどの事例をもとに会議等で、実際の動きなど見て話し合いを持ち、実践につなげられるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1度の消防署の立会いのものと避難訓練と、毎月施設内で日中夜間想定での避難訓練を行っている。自治体が出している災害マップで危険個所を確認し、避難経路や避難場所を把握している。	訓練を毎年10月に行うように計画しているため、職員全員が参加できるよう勤務等を調整しており、今後は地域の方に協力参加していただけるよう要望していくことにしている。日持ちする食材を保管し、緊急時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所前の生活歴を把握しながら接している。家庭的な雰囲気を持ちつつ、誇りやプライバシーが確保されるように対応している。一個人としての人格を尊重し言葉使いに気を付け羞恥心や自尊心を損ねないように心がけている。	人生の先輩として一人ひとりに対して言葉使いに気を付けている。トイレや入浴時のプライバシーを意識して介助している。難聴の方には、ジェスチャーを使い耳元で話し、認知症が重い方には正面から接するように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる方は声掛けをし、自己決定を尊重している。また、認知度から自己表現ができない方もおり、表情や動作などから思いや希望など汲み取り、自己決定に結び付けるよう関わりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調を把握し、どのように過ごしたいのかを、希望に沿った支援を心掛けている。居室で過ごすのではなく、なるべく全員がホールで過ごせるよう声掛けしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	何を着たいのかどうしたいのかを利用者と確認しながら身だしなみを整え、おしゃれを楽しめるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく自分で食べられるように食事内容や食事道具を選別したり、食事の準備や用意を職員と共に行えるような環境整備をしている。	旬のものを食べてもらいたいと考え、管理者が一週間ごとにメニューを作成している。利用者がおいしく食べられるよう、その人に合った形態で提供している。ウッドデッキでバーベキューなど、外で食べると皆さん喜び、誕生日はケーキやプリンなど提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつ時に栄養補助飲料の提供やそれぞれに合った食事量を測ったり、水分量も1日を通して確保できるよう時間ごとに調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の口腔の状態によって使用する歯ブラシや専用スポンジなど使い分けている。入れ歯の方は就寝時に洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとにトイレ誘導しながら、排泄パターンを把握している。誘導の時間を決めつつも、その人に合った時間で誘導、介助している。	トイレで排泄できることを目標にしている。尿意等を訴えることができない方でも、便座に座り排泄ができるよう排泄パターンを考えながら、一人ひとりにあった時間に誘導している。失敗しても、大丈夫ですよと声掛けし、次は自分で排泄できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自家製野菜中心の食事や水分摂取を促し、個々の食べやすい形状で提供している。また、豆乳や栄養補助食品、自家製ヨーグルトも提供している。天気の良い日は外に散歩、運動をしたり、ホール内でも軽い運動をするなど予防に努めている。かかりつけ医師にも相談し、薬剤での対応もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けにて入浴を促しているが、その都度個々の希望に応じて、入浴日時を変更したり、体調不良等があった際は着替えのみにするなどして対応している。	入浴を嫌がる方には職員を交代したり、時間をおいて再度声掛けするなどしている。ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を使用している。脱衣所にヒーターを置き、浴室との温度差がないようにして、体に負担がかからないようにしている。同性介助を基本にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯、熟睡できるように、日中は施設内外で運動・散歩など適度に行っている。状況に応じて、休息を促している。空気清浄機・加湿器を使用し、適正温度や湿度を保てるように調整し、冬場は電気毛布やエアコンなど使用し、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に処方薬の作用、副作用を確認している。内服前に用量を確認している。内服後の症状変化の把握、職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 役割合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前の生活歴を参考に、支援している。散歩が日課の方はウッドデッキに出て、外気浴を楽しみにしている。洗濯干し・たたみを、自らの役割と認識し積極的にやってきている方もいる。祝い事、イベント時にお酒を提供し、楽しく、気分転換できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、外出は受診以外は控えている。施設敷地が広いので隣接する畑や花壇、ウッドデッキに出て自然に触れられるよう支援している。	事業所周辺の桜の木や花壇や畑を見るなどしながら散歩へ行っている。外出が難しい方も、ウッドデッキに出て田園風景を見て風に当たっている。希望があれば、買い物に出かけている。行事で出かけるときは、トイレが心配なよう事前に確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金は家族管理でお願いしているが、希望があれば、家族に相談しながら、買い物など支援出来るようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば電話や手紙の支援をしている。家族から電話があれば、話が出来るように対応している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間には季節ごとの飾りをしている。温度と湿度を時間ごとに管理して徹底している。</p>	<p>利用者同士の相性などから、好みの場所や座る場所を決めてもらっている。歩行の邪魔にならないよう、通路に物を置かず、広い空間になるようにしている。マスクの着用、手洗いうがい、アルコール消毒換気、温度湿度の設定を行い、感染対策を徹底している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間の中でも、一人になれる空間を作り、気の合った方たちと隣で話が出来るように座る位置など工夫している。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。</p>	<p>自宅で使用していた家具などを施設に持ち込み、居室は過ごしやすさを考えた家具の配置にして使用している。</p>	<p>転倒しやすい方や車椅子の方など、その人の体力や身体状況に合わせ、ベッドや家具の配置や向きを考え、動きやすく配慮している。ドアに名前を掲示し、居室を間違わないようにしている。清掃は毎朝、職員が行い居室担当者が衣替えを行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内の入り口やドアに場所の名所を記入して一目でどこなのかをわかるようにしている。また、安全に生活でき、残像機能を活かせるように配慮している。</p>		